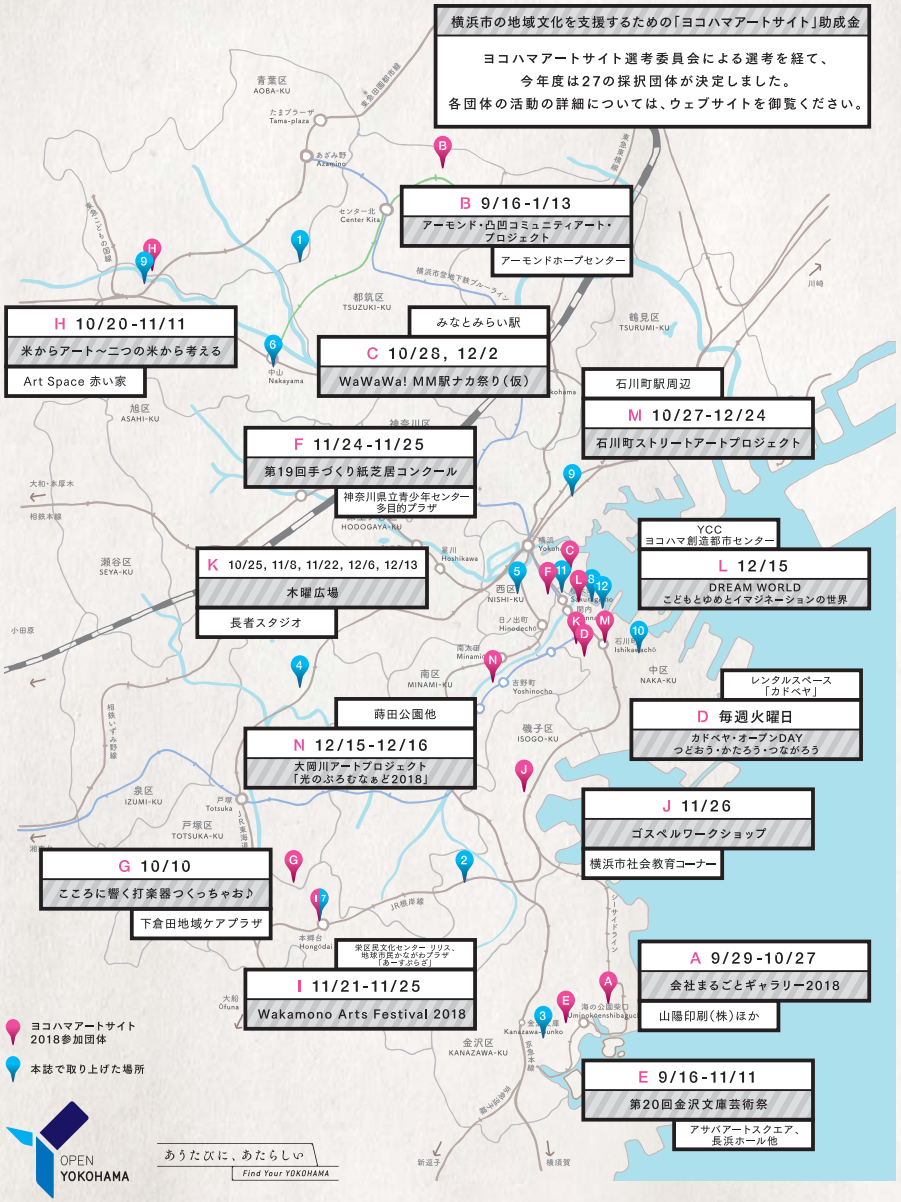
YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2018参加団体による
10月～12月のイベントをピックアップ。ぜひ、おでかけの予定に加えてほしいものばかりです。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト選考委員会による選考を経て、
今年度は27の採択団体が決定しました。
各団体の活動の詳細については、ウェブサイトを御覧ください。



OPEN YOKOHAMA
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://y-artsite.org/

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイト

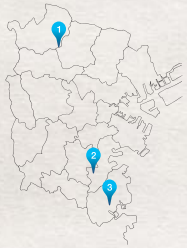
横浜の地域文化を考える・応援する

都筑区・かたるべハッピーザ（P.02）

2018 Vol. 017

「特集　歌のある場所」

磯子区・洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー（P.03左）



特集 歌のある場所

その人だけの メロディーがある

1 バンジョーの音色と歌が満ちる場所

今日は社会福祉法人かたるべ会の、バンジョークラブの練習日。チューニングの音が響くにぎやかな集まりのなかに混ざっているのは、音楽家・青木拓磨さん、俳優・大道朋奈さんだ。

昨年、特定非営利活動法人スローレーベルの企画をきっかけに、かたるべ会と出会った二人。ワークショップを通してメンバーから出た歌詞をもとに、楽曲を制作。できあがった曲は、かたるべ会の名物・おからピザを販売する際のコマーシャルソングとしても活躍した。

「みなさんと一緒に活動をするなかで、歌に正解はないのだと思いました。凝り固まった自分を救ってもらったような気がします」と大道さんは語る。青木さんも「かたるべ会の皆さんの表現は面白い。もっと色々な人に会ってほしい」と思い、今年度からは「かたるべハッピーザ」として活動を開始。バンジョークラブだけでなく、演劇活動ともコラボレーションし、作品を作る予定だ。

かたるべ会は横浜市を拠点に、障害者の就労支援、生活支援を行っている。この日の練習では、かたるべ会の社員や就労者、職員をはじめ、補助犬、放課後等デイサービスを利用する子ども、そのお母さんや兄弟、地域の方など、計26名が参加。施設職員でバンジョー奏者でもある、原さとしさんの指導のもと、バンジョーを弾きながら「おからが　体重計から
わたしを解き放ち　とろける恋
はじめるの…」と歌いあげていた。

参加者は、多少音程が違っていても、笑顔いっぱいでバンジョーを演奏する。この歌詞はぜひ自分が歌いたい、と立候補する人も多い。そんな練習風景を見ていると、歌を通し、一人ひとりが表現活動を楽しんでいることがわかる。明日を元気に生きるための、活力となる時間が続く。

お母さんの歌声響く夏休み

磯子区・洋光台にお母さんたちの歌声が響く。「洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー」は、子ども連れでも歌やハーモニーを気兼ねなく楽しみ、リフレッシュできる場として、ゴスペルワークショップを開催している。どんな人でも来やすいように、料金は1回につき500円。楽器を弾くのとは違い、楽譜のないゴスペルは未経験者も参加しやすい。

まずは講師の澁井真代さんの掛け声で簡単なストレッチを行い、身体をほぐしてから歌唱の練習を開始。マイクで歌い上げられる力強いソロパートに他のメンバーも拍手喝采で盛り上がる。歌を通して、ママ友達とも違ったコミュニティが形成される場にもなっているのだろう。

子どもは0歳から小学生まで、様々な年代が入り交じる。夏休み真っ最中の子どもたちは、玩具やゲームを持参して遊んでいたものの、ワークショップが進むにつれ、大人たちの真似をして手拍子を打ったり、歌詞カードを覗き込んだり。中には一緒に歌を口ずさむ子どももいた。

堂々とゴスペルを歌う参加者の顔は輝いている。最後は一人ひとりとハグをしてお別れ。今日は、お母さんが主役の日だ。

人から人へ継承される地域のうた

「伴奏もない、音符もない、人から人へ伝えるしかない」。木遣(きやり)歌について、金沢区木遣囃子連絡協議会・会長の布川紘一さんはそう語る。同会は1973年に木遣歌、祭囃子の存続を危惧した布川さんが設立した。

独特な節まわしで歌われる木遣歌。重い物を運ぶ際の掛け声が、やがて歌に変化したものといわれている。今では、お囃子とともに祭礼でも歌われるようになった。農家が多い時代は、住民それぞれがお祭りでの役割を持っていたという。「カラオケもない時代。娯楽のひとつでもあったと思います。歌ったあとにお酒を飲むといった交流がとても大切な時代だった」。歌を歌うことは自己表現だけではなく、まちの人々を繋ぐ役割もあった。

練習には、小学4年生から86歳まで、総勢40人ほどが参加。子どもにとっては、地域の年長者から挨拶や礼儀を教わる場ともなっている。メンバーの小峰正夫さんは、このまちへの移住をきっかけに参加し、40年が経つ。武州金沢釜利谷宿郷土芸能保存会・会長の平野清さんは「年間を通して、発表する機会も多いです。小学校で教えることもあります」と話す。

多くの人の想いに支えられ、地域のしらべが今日に継承されている。

生活のリズムと結びついたメロディー

「エ　わたしゃ横浜荒波育ち　ホイ」と始まるのは、開港まもない頃に歌われていたという洗濯業の労働歌。「シッチキ　ジャブジャブ　ゴッショゴショト」という歌詞からは洗濯板でリネンをこする様子がイメージできる。輸出品の目玉であった生糸、茶の工場で歌われた「製糸場唄」「お茶場節」には、調子をつける囃子詞や、働く女性の愚痴も含まれている。歌を通して、当時の生活ぶりが立ち現れるようだ。

横浜の暮らしと深く結びついている歌といえば「ヨコハマさわやかさん」(作曲: 高木東六)がある。ごみの収集車から流れてくるメロディだ。1980年11月、横浜市環境事業局(現在の横浜市資源循環局)が、まちの美化・浄化運動「ヨコハマさわやか運動」の一環として採用。今では、ごみ収集のサインとして市民に定着し、生活のリズムになじんでいる。

私たちの毎日は、歌の上に成り立っているのかもしれない。

P.3左
洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー
http://nanairoharmony.blog65.fc2.com/
P.3中
武州金沢釜利谷宿郷土芸能保存会
https://shukumatsuribayashi.jimdo.com/

昨年度の
アートサイト
ラウンジ

交流と研修の場 アートサイトラウンジ

アートと地域の関わりについて考える・交流する場「アートサイトラウンジ」。
毎回異なるテーマで地域文化についてのトークを開催しています。
昨年度は、vol.14〜17までの4回を行いました。今後の開催についてはウェブサイトをご覧ください。

Vol. 014 4

アートイベント、撮った後どうする？

アートプロジェクトにおける映像記録の活用と、その後の展開。

【会場】シネマノヴェチェント(西区中央)
【出演】ART LAB OVA／NPO法人ぷかぷか／たまプラーザ座まちなかパフォーマンスプロジェクト／映像グループ ローポジション

Vol. 015 5

地域で次代を育むこと

アートプロジェクトの継続における課題と次世代への展望。

【会場】横浜市栄区民文化センター リリス・会議室(栄区小菅ケ谷)
【出演】GROUP創造と森の声／金沢文庫芸術祭実行委員会／AOBA+ART／さかえdeつながるアート

Vol. 016 6

横浜の北部の民話に聴く〜『民』と『族』の間に挟まれて〜

民話で読み解く地域コミュニティとアニメーションの上映。

【会場】なごみ邸(緑区中山町)
【出演】Robert Eskildsen ロバート・エスキルドセン
(「横浜に聴くプロジェクト」代表／国際基督教大学上級准教授)

Vol. 017 7

まちとアートの仲人たち

地域とアートのつなぎ手に求められる役割やその働き。

【会場】BankART 2F 2Bスペース(中区海岸通)
【出演】石神夏希(ペピン結構設計)／宮武亜季(居間 theater／PARADISE AIR)／宮永琢生(ままごと)／横井貴子(フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局)

地域文化の風景

8 歴史あるまちで生まれる自分たちの新しいアート

齊藤実雪さん
（神奈川区民文化センター）

葛飾北斎のダイナミックな波の絵「富嶽三十六景　神奈川沖浪裏」でも有名な神奈川区。かつては宿場町としても栄え、歴史のあるまちです。横浜には三つの宿場町がありましたが、「おらがまちが一番」と自分たちのまちに誇りを持っているという印象がありますね。戦前から続く大口通商店街と六角橋商店街もにぎやかで、活気のあるまちです。

アート活動という点でいくと、川崎や東京にもアクセスしやすく、関心のある人は色々な文化施設へ気軽につながりやすいという魅力がありますね。私自身が、アートに関わるようになったのは子どもが生まれてからなんです。のびのびとアートに触れられるような質の高いプログラムを子どもたちに届けたくて、まずは第一生命ホールのサポーターとして企画委員から始めました。その後も「こんなものがあったらいいな」と思い付いたら、待っているのではなく「じゃあ自分でやろう！」と。限られた人たちの特別なものではなく、もっと日々の中で気軽にアートに触れる機会があればいいなと思うんです。今は、まちの中にいる、まだアートに出会っていない人々を発掘することが仕事です。そのために重要なのはまちを知ること。移動するときはできる限り、バスや徒歩にするように心がけています。

この頃は、「おやじ」コミュニティを盛り上げたいと考え、当館では、おやじ向け企画を継続して行っています。中高生から70代までの「自称・おやじ」が参加し、ダンスに取組んでいます。アートを通して地域コミュニティが盛り上がることで、もっと人と人がつながり互いに頼り合うような雰囲気が生まれてくればと思っています。

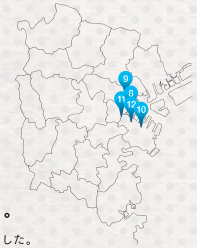
アートの拠点としていま注目しているのは、2017年4月にオープンした「しぇあひるずヨコハマ」。代表の荒井聖輝さんが、ご自身の引きついだヴィンテージのコンクリート住宅をフルリノベーションした住宅型複合施設です。独立した居住空間の他に、共用の庭や畑、屋上、バーカウンターなど交流を生み出す仕掛けが用意され、ライブなどの催しも盛んに行われているんですよ。

まちのあちこちで、古いものと新しいものが掛け合わさることで新しい魅力を生み出すような取組が増えているのを感じます。今年の春、146周年を迎える横浜市立子安小学校が新校舎に移ったのですが、旧校舎を飾っていた大正期のステンドグラスも移設されました。伝統を守りつつ、未来へバトンをつなげるという姿勢が神奈川区らしさかもしれません。

しぇあひるずヨコハマ（株式会社こころくらす 代表取締役・荒井聖輝さん）

六角橋商店街

事務局うろうろ日記



ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

★はアクションポート横浜のNPOインターンシップ生が執筆・撮影しました。

9 8月5日（日）

田奈のアートスペース・赤い家では、都筑アートプロジェクト「米からアート」展が始動。地域のコメとアメリカ文化を結び付けた企画だ。オープニングでは、3人の芸術家による海外体験が語られた。少数者のメッセージを伝える対抗文化としてのアート。その奔放さに魅せられた。展示は11月まで続く。恩田川を眺めながら帰路につく。

10 8月10日（金）★

未公開コレクションを中心に古写真・絵葉書に見る幕末・明治の山手を紹介する、横浜山手今昔＜絵葉書の世界～新関光二コレクション～＞を見に中区・山手234番館まで。散らばった山手の資料を再収集し、写真と絵葉書から山手の歴史を振り返る。皆、興味深く展示を見ていた。私たちの知らないドラマが数多くあるのだと感じる。

11 8月14日（火）★

紙芝居文化推進協議会の皆さんと「ボイストレーニング 声でつながろ！」に参加。演劇アドバイザー指導のもと、ストレッチと発声練習を行う。身体の芯から声を出すことは気持ちがいい。終わったあとは、磯子区の増田園による日本茶講座。「お茶って気軽に楽しめるんだ」と同行者と盛り上がる。帰ったらお茶を飲んでみよう。

12 8月15日（水）★

象の鼻テラスにて、LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMAによるサマーキッズアトリエ。子どもたちがダンボールや絵の具を使って「モネの蓮池」を作成。子どもたちは英語と日本語での説明を上手く聞きながら、興味津々に自らの作品と向き合った。色味やデザインなど様々で子どもたちの個性が豊かに描かれていた。

ヨコハマアートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
（ＳＴスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜ＳＴビル 208
（認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL:045-325-0410
FAX:045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite
ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.017

発行　ヨコハマアートサイト事務局
編集　認定ＮＰＯ法人
　　ＳＴスポット横浜
テキスト　小川智紀　池田友実
　　加納美海
　　アクションポート横浜
　　NPOインターンシップ生：
　　芥川みさと（横浜美術大学）
　　内藤治水（お茶の水女子大学）
　　大和久唯（明治学院大学）
　　榊原望恵（横浜国立大学）
　　峯岸愛結（明治学院大学）
デザイン　相澤事務所株式会社
撮影　福井裕子　小渕真希子
印刷・製本　株式会社 三島印刷
発行日　2018年9月28日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。